日本科学者会議

福岡支部ニュース

2009 年 1 月 14 日発行　No. 196

● **日本科学者会議事務局**

〒113-0034　東京都文京区湯島 1-9-15
Tel: (03) 3812-1472

● **福岡支部事務局**

事務局長　三好永作
〒816-8580　福岡県春日市春日公園 6-1
九州大学大学院総合理工学研究院融合創造理工学部門
Tel: (092) 583-8839　Fax: (092) 583-7677
E-mail: miyoshi@asem.kyushu-u.ac.jp
郵便振替　福岡 01790-1-5576

目次

１．第 17 回総合学術研究集会参加報告
２．０８年度環境研究会報告
３．益川敏英氏の本
４．今後の予定
５．定期大会のお知らせとお願い

１．第 17 回総合学術研究集会参加報告（2008 年 11 月 22～24 日）

青野雄太（九大工学部班）

11 月 22～24 日に名古屋大学で第 17 回総合学術研究集会が開催された。27 の分科会、講演数は約 160 と、多分野に渡り多くの講演があり、タイトなスケジュールであった。私にとって専門と異なる分野の話は大変ためになった。各講演の個別具体的なテーマは違っても、多面的な視点をもつことが問題解決への正しいアプローチであると感じた。また、私が聞いた講演の範囲ではあるが、テーマ「平和の創造と科学の役割」に基づいた統一感のある集会であったと思う。

◆　全体集会（22 日）

３つの報告があった。まず最初に沢田昭二実行委員長から基調報告**「平和の創造と科学の役割」**が行なわれた。平和問題の世界史的な解説や、長年原爆症認定訴訟に携わってこられた経験と、その時代の科学者の関わりについてお話があった。科学的な態度の重要性

を痛感した。

記念講演は、予定していた長谷川正安氏が体調を崩し入院されたため、森英樹氏が急遽、代理で講演**「憲法改正論の現状とその対応」**を行なった。憲法学の第一人者である長谷川氏のお話が聞けなかったのは残念であるが、森氏の情勢分析と解説は大変わかりやすかった。「生活軽視＝軍事重視」の言葉は、まさに現代社会を一言で表わしていると思う。

最後に猿田正機氏から特別報告**「トヨタウェイと人事管理・労使関係」**があった。世界で注目されたトヨタ生産方式であるが、人事管理・労使関係など労働問題から見ていくと(秘密主義で情報を見るのには困難が伴うとのことである)、企業の利益のための社会づくりと一体になっていると思われる。これほど過労死・自殺があったとは知らなかった。

以下、参加できた分科会について簡単に報告する。

◆「個（人間性）の確立にとって理科教育は何をなすべきか」分科会（23 日）

私は現在 1 年生の材料力学演習を担当しているが、そこで力を教える難しさを感じている。力学をどうやって教えるのか、題名に興味深いものが２件あったので、聞いてみた。

生源寺孝浩氏 **「子どもは大人が思うよりもっと賢い―小学校５年「静力学」を例に―」**
小川嘉憲氏 **「生活に根ざし批判的な学びを理科教育で！**
―授業実践「『関西は地震がない』はウソだったのか？」をとおして―」

いずれも仮説・実験・観察・検証といったプロセスを通じた教育実践の報告であった。小学生の発想の新鮮さに驚かされた。一方で完全に正しいといってよいかどうかわからない実験や分析もあり、発展性のある理解になっているのか疑問を感じるところもあった。しかし、物理に限らず、こうしたプロセスの中で、批判的に考え、検証することが大切であることは間違いないと思う。

◆「気候変化とエネルギー問題」分科会（23 日）

この分科会で福岡支部エネルギー研究会の研究成果を発表した。また、温暖化を中心にした気候変化の話題は大変勉強になった。

舘野淳氏**「エネルギー本位論の試み ―人はどれだけエネルギーが必要か―」**

「人はどれだけエネルギーが必要か」、これは福岡支部でエネルギー研究会を立ち上げたきっかけにも重なる。１人１日あたり必要なエネルギーは 2000kcal であるという分析と、省エネルギーには文明論的な考察が必要であるというお話があった。

本島勲氏**「地球温暖化に関わる日本と世界のエネルギー・原子力発電情勢」**

現在の「原発ルネッサンス」はオイルショック、政治的な要因による一時的な価格上昇とは異なり、地球温暖化を口実にしたエネルギー資源確保の意味合いが強い。資源争奪戦が懸念される。

深尾正之氏**「持続可能な社会のエネルギー ―原子力は切札になるか―」**

人類の野放図なエネルギー消費と原子力との関連、原子力の問題について解説があった。サブタイトル「原子力は切札になるか」に対する講演者の結論は「原子力は麻薬」である。持続可能なエネルギー消費の目安として地球が受け取る太陽エネルギーが基準になるのではないかとの提案があった。

岩本智之氏 **「近年の「異常気象」を考える」**

林弘文氏**「地球温暖化と大循環モデルについて」「地球温暖化と海洋大循環モデルについて」**

異常気象のメカニズム、大気大循環・海洋大循環のモデルについて解説があった。岩本氏は、異常気象は地球表面の温暖化と成層圏の降温による対流の活発化が原因であるとの報告であった。「地球温暖化」は一言でいえるものではなく、メカニズムをよく知る必要があると痛感した。また、林氏からは気候変化の理解と予測のモデルについて解説があった。計算モデルとはいっても、膨大な観測に基づいて行なわれており、シミュレーションの難しさがよくわかった。また、IPCC に対する反論の検証もあった。IPCC の報告、その基礎となった真鍋らの研究は、大変緻密に行われていると感じた。

寺尾徹氏 **「最近の地球温暖化懐疑論とその特徴について」**

地球温暖化に対して懐疑的な解説をした書籍がある程度売れているようである。寺尾氏はこれらの本を読み、論点と傾向について調査を行なった。懐疑論は一面的な捉え方をしているものが多いようである。しかし一方で、IPCC の報告を鵜飲みにすれば良いということでもなく、科学的・批判的態度は大切であるとの議論があった。

歌川学氏 **「日本の排出実態と国内削減の可能性について**

―中期の温室効果ガス排出大幅削減にむけて―」

温室効果ガス排出の現状分析と削減の方策について解説があった。削減の方策とは、エネルギー効率・炭素集約度を高めることであるが、個々に見ていくとその余地はかなり大きいようである。また、これら対策が全体で見ればコスト削減になるということであった。全体的視点からの方策、政策が重要であると感じた。

神山智美氏　**「森林の「温室効果ガス吸収機能」を考える**

―京都議定書 3 条 4 項「森林経営」推進がもたらすもの―」

博士課程学生の発表であった。京都議定書の「森林経営(Forest Management)」をめぐる日本の林業政策の変化について報告があった。現在の林業政策は温室効果ガス吸収機能を京都議定書の数字合わせに利用し、本来あるべき多面的な機能を果たせない恐れがあるとのことであった。会場からは森・川・海はつながっており、地域社会全体を考えなくてはならないことが意見された。

青野雄太氏　**「九州における自然エネルギー賦存量と利用可能性に関する一考察」**

福岡支部・エネルギー研究会で行なった議論について報告した。緻密さに欠けると自覚していたが、やはり分析が荒いとの指摘を受けた。今後に生かしていきたい。また、意外にも良い研究だとの御意見もいただいた。会場にいた方から後日資料をお送りいただくなど、思っていた以上に良い交流ができた。研究会の方で議論を深めたいと思う。

田中雄三氏　**「「京都議定書・第２約束期間」をめぐる諸問題 ―「第２約束期間」の骨格的内容、気候変動問題の合意とその「制約条件」性―」**

田中氏の報告は、温室効果ガス排出枠基準として検討されている人口比例方式配分が社会に及ぼす影響を中心に、経済と環境の両立の困難さについて解説であった。排出削減のパラメータの選択は、社会に多様な影響をもたらす。環境問題は価値観の変革も含めて困難な課題であることを再確認できた。

司会進行がスムーズで、全体討論も十分できたと思う。児玉氏(石川支部)から、我々の研究成果をもっと社会に知らせるべきだとの意見があった。全くその通りであると思うが、それとともに横の連携をもって系統的に取り組むことができればさらに良いと感じた。

◆「科学・技術の現状批判 ―日本の科学・技術の健全な発展のための課題―」（24日）

長田好弘氏　**「本分科会開催にあたって ―科学・技術の現状批判の今日的意義―」**
西田陽子氏　**「開発研究者の過労死をめぐって」**
増澤誠一氏　**「霞ヶ関における過労死事件についての考察 ―Ａ省の事例―」**
久志本俊弘氏　**「企業の不祥事問題 ―データねつ造と技術者の問題―」**
矢作英夫氏　**「成果主義導入８年目の現実 ―ＮＴＴ研究所の場合―」**

国立大学法人化の過程で競争的資金の獲得が大学の使命となったが、大学以上に儲け指向であろう民間研究所の実情について興味があったので、この分科会に参加した。民間研

究所では、当然かもしれないが、成果主義が過度に進んでいる。現在、大学ではそこまで進んでいないし、一定の歯止めがかかっているようにも思える。しかし、今のように基礎基盤を軽視し、小手先の応用に走っていれば、いつか応用も何もできなくなってしまうのではないか、そんな危機感を感じた。また、研究者の過労死については特に興味はなかったものの、その特異性など大変勉強になった。

２．０８年度　環境研例会報告

◆3 月環境研例会（3 月 22 日）
「農家から学んだ農業経営」平川一郎氏（元東海大学教授）
◆5 月・JSA 支部総会と合同例会
◆6 月環境研例会（6 月 29 日）
「目から鱗の長生き免疫学」浦川豊彦（医学博士、元オックスフォード大学上級研究員）
◆9 月環境研例会（9 月 27 日）
「最近の都市災害の傾向と回避のために」多賀直恒（山口福祉文化大学教授・元福岡大学教授）
◆10 月環境研例会（10 月 25 日）
「有明海の環境異変の原因を考える」石田宏一（海洋学会会員）
◆11 月環境研例会（11 月 15 日）
「これまでの環境教育これからの環境教育」藤本　登氏（長崎大学准教授）
◆１月環境研例会（1 月 10 日）
「九州における自然エネルギー資源と利用可能性について」青野雄太（九大工学研究院助教）

３．益川敏英氏の本

１０月５日に九州大学六本松地区で開催された JSA 九州沖縄シンポジウムの中の益川敏英氏による講演ですが、支部事務局の手により原稿に起こしました。講談社から出版される予定の益川氏に関する書籍の一部に掲載されることになっていますが、出版が遅れているようです。しかし、ぜひご期待ください。

４．今後の予定

◆エネルギー研究会（第 26 回）1/31（土）14:00～17:00　（びおとーぷ）
◆「日本の科学者」読書会　2/9（月）14:00～17:00　（びおとーぷ）
◆支部幹事会（第 4 回）2/9（月）18:00～20:00　（アクロス久留米大サテライト）
◆びおとーぷ参加団体交流会 3/21(土)

５．定期大会のお知らせとお願い

支部の定期大会が５月 10 日（日）午後にアクロスの久留米大学サテライトで予定されています。講演も企画中です。例年暮れの会費振込票に印刷している委任状を今回は忘れてしまいました！　まだ先の話ですが、確実に出席の方を除き、「2009 年５月の JSA 福岡支部大会欠席の場合は議長に議事を委任します」の一言を、メールで担当幹事鈴木右文までお送りください（yubun@flc.kyushu-u.ac.jp）。ファックスの場合は支部事務局（表紙）までお願いします。

編集後記：
九州大学六本松地区は３月で廃止となり、多くの部分が郊外の伊都地区へ移転となる。建物の都合でわずかな人数が半年残ることにはなるが、３月で地区としての機能はほぼ終わる。この４月からは伊都が九大最大のキャンパスとなる。移転がこんなに大変なものかと思い知る目のまわるような毎日だが、肉体業務の多い中、本誌の編集はほっと一息いこいの時であった・・・(YS)